

花きの栽培技術

コデマリ (小手毬)

JAありだ 営農指導課

コデマリの切り枝は柔らかな曲線があり、小枝を短く切って利用できるため、フラワーアレンジメントや洋風の生け花によく合うことから、季節感のある花材として人気のある花木です。

中国南東部の原産で、17世紀ごろ日本に渡来して庭木や生け花用に栽培されてきました。

花の並びが鈴をかけたようであることからスズカケ（鈴懸）の別名があり、コデマリといわれるようになったのは江戸時代の初めころからといわれています。

今回は、小さい花をびっしりとつけた毬状の花が綺麗な昔ながらの名花、コデマリの特徴や育て方について紹介します。



コデマリの花

特徴

コデマリは、暑さ寒さに強く丈夫で育てやすいバラ科シモツケ属の落葉性低木です。

葉を落としてしまっている冬はどこか寂しげですが、春には白く毬のような花、夏には緑の葉、そして秋は鮮やかな紅葉と四季を感じることができる花木です。

基本的に乾燥には弱く、水はけの良い場所を好みます。日当たりの良い場所を好みますが、直射日光はやや苦手で、半日陰の風通しの良い場所が適しています。

植え付け

2月中旬から3月下旬、あるいは10月上旬から11月下旬が適期です。

整枝・せん定

その年に伸びた枝に翌春咲く花芽をつくるので、花後なるべく早い時期に下の方の枝が分岐しているあたりで切り戻します。枝が多数出て風通しが悪くなると病害虫が発生しやすくなり、また細い枝は花つきが悪いので、枯れ枝や細い枝は基部から切り除きます。

株を大きくしたい場合は、花後に軽



コデマリの株もと

く全体を刈り込み、枯れ枝があれば地際から切り取っておきます。

株をコンパクトにまとめたい場合と、数年に1回株を更新する際は、開花後に地際から20～30cmの高さで切り詰めます。

切り枝の場合は、細い枝を残して3～5cmの高さで台刈りしますが、小枝まで取ってしまうと樹勢が低下するので注意してください。



紅葉したコデマリ

肥料

1月～2月と花後の5月～6月に、化成肥料(10-10-10)であれば株あたり30～50gを株の周りに施します。コデマリ(小手毬)は、夏が過ぎての追肥は、枝だけが生長し、花芽ができないので夏以降は与えないようにします。

病害虫

風通しが悪いとアブラムシやカイガラムシが発生します。古い枝を地際で切り取り新しい枝を残すような更新せん定を行って日当たりと風通しを良くして発生しない環境づくりを心掛けるほか、冬の間石灰硫黄合剤を散布して予防します。

5月～6月にかけてウドンコ病が多発することがあるので、発生初期に殺菌剤を散布します。

(けい)